



今こそ「ONE TEAM」となり、JR産業に集うすべての仲間の雇用と生活を守ろう

2 0 2 1 年 3 月 1 6 日

日本鉄道労働組合連合会

2 0 2 1 春 季 生 活 闘 争 代 表 者 会 議

ヤマ場に向けた取り組みを意思統一

JR各単組については、3月17日以降、速やかに回答を引き出すことを確認！

J R 連 合 は、連 合 「第 1 先 行 組 合 回 答 ゾ ー ン」 に 突 入 し た 3 月 1 5 日、2 0 2 1 春 季 生 活 闘 争 代 表 者 会 議 を 開 き、こ の 間 の J R 各 単 組 の 交 渉 経 過 を 共 有 し た 上 で、ヤ マ 場 に 向 け た 取 り 組 み の 意 思 統 一 を 図 っ た。

荻山市朗会長は挨拶で、鉄道需要の低迷が続き、一時帰休も J R 各社で継続実施されている中、非常に厳しい団体交渉を余儀なくされていることに理解を示すとともに、この間の J R 各単組の精力的な取り組みに対して謝辞を述べた。その上で、J R 各単組の団体交渉と並行して、J R グループの経営を支えるために、国会議員、連合、交運労協等と連携して、雇用調整助成金の特例措置の延長や、J R 二島・貨物会社の経営自立に向けた支援策の継続・拡充、固定資産税や社会保険料などの公租公課の減免・支払い猶予措置の延長、新型コロナウイルス対策地方創生臨時交付金の活用などに精力的に取り組んできたことを振り返り、「我々は、J R グループの経営を支えるべく最大限の取り組みを展開してきた。会社も、厳しい経営状況のみを主張するのではなく、今できることを検討し、組合員に最大限応えるべきだ」と述べた。そして、企業の存続が第一義ではあるものの、企業の財や活力である組合員とその家族の生活設計にも十分に考慮する必要があること、近視眼的な判断で対応を誤れば、人材の流出・劣化が加速し、ひいては産業の劣化にも繋がりがねないことを指摘し、「最後の最後まで一致団結して、粘り強く要求実現に取り組もう」と訴えた。

その後、J R 各単組の委員長から、それぞれの交渉経過について報告があり、特に、発足以来最大の危機的状況が続く J R 旅客 6 社では、雇用の維持については労使で確認できたものの、定期昇給の実施の可否や期末手当の支給日については、未だに多くの単組で確認できていないなど、厳しい交渉実態が報告された。しかし、そうした状況にあっても J R 各単組の委員長からは、組合員と家族の負託に応えるべく、最後の最後まで粘り強く闘い抜く決意が示された。

なお、J R 各単組については、連合の動向等を踏まえ「3月17日以降、速やかに回答を引き出す」ことを確認。併せて、グループ労組については、現時点で 93 単組中 58 単組の要求書提出、52 単組のベースアップ要求を確認し、エリア連合を中心とした今後の交渉支援についても意思統一を図った。